

会 告

社団法人 土 木 学 会

行事案内	月 日	行 事 名	場 所	備 考				
本 部	10月18日(月) ～19日(火)	耐震設計講習会	東 京	9号2ページ参照				
	10月20日(水) ～21日(木)	第8回地震工学研究発表会	土 木 学 会	9号4 ”				
	10月26日(火)	国際水理学会第11回大会報告会	土 木 学 会	10号4 ”				
	11月7日(日)	第2回衛生工学講演討論会	京 都 大 学	10号4 ”				
	11月15日(月) ～16日(火)	第3回岩盤力学に関するシンポジウム	土 木 学 会	10号5 ”				
	11月18日(木) ～19日(金)	第12回海岸工学講演会	名 古 屋 市	10号6 ”				
	関 東 支 部	11月16日(火) ～18日(木)	第1回電子計算機講習会	東 京	10号7 ”			
12月8日(木)		コンクリート混和剤に関するゼミナール	東 京	10号8 ”				
中 部 支 部	10月22日(金)	第1回研究発表会	名 古 屋 市	9号5 ”				
関 西 支 部	10月16日(土)	学生映画会	大 阪 市	10号11 ”				
	10月23日(土)	第1回学生見学会	名 神 ・ 外	10号11 ”				
	10月26日(火) ～27日(水)	最近の鋼構造に関する講習会	大 阪 市	9号7 ”				
	11月14日(日)	支部年次学術講演会	京 都 大 学	10号8 ”				
	11月16日(火) ～17日(水)	第1回見学会	名 阪 国 道	10号11 ”				
	11月25日(木) ～26日(金)	人工軽量骨材コンクリート講習会	大 阪 市	10号12 ”				
	12月15日(水) ～16日(木)	耐震設計講習会	大 阪 市	10号12 ”				
	西 部 支 部	11月26日(金) ～27日(土)	岩石力学とその施工法への応用講習会	福 岡 市	10号12 ”			
そ の 他	10月18日(月) ～19日(火)	災害科学に関する第2回合同総合講演会	東 京	9号3 ”				
	10月28日(木) ～30日(土)	第14回レオロジー討論会	仙 台	6号83 ”				
	11月19日(金)	第12回風に関するシンポジウム	東 京	8号8 ”				
	11月26日(金)	第12回橋架・構造工学研究発表会	東 京	10号5 ”				
	お 知 ら せ	<ul style="list-style-type: none"> ■研究発表会・論文・報文募集(北海道支部) ■第12回大河内賞募集について ■東洋レーヨン科学技術賞について ■昭和40年度土木学会賞候補ならびに吉田研究奨励金候補の募集 ■土木学会定款一部改正について ■土木学会規則一部改正について ■第10回水理講演会講演募集 ■「1965年度」水工学シリーズの頒布 			9号8 ” 9号8 ” 9号8 ” 10号2 ” 10号3 ” 10号3 ” 10号4 ” 10号13 ”			
<h3>日本学術会議第7期会員選挙立候補者の推薦</h3> <p>本年11月25日に行なわれる標記の件につき、理事会において協議の結果、土木学会ではつぎの2名の方を推薦することになりましたのでお知らせ致します(50音順)。</p> <p>(全国区第5部 土木工学)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; text-align: center;">石 原 藤 次 郎 君</td> <td style="width: 70%;">昭和5年京都大学卒 工学博士 京都大学教授 専攻 河海工学</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">平 井 敦 君</td> <td>昭和11年東京大学卒 工学博士 東京大学教授 専攻 橋梁工学</td> </tr> </table>					石 原 藤 次 郎 君	昭和5年京都大学卒 工学博士 京都大学教授 専攻 河海工学	平 井 敦 君	昭和11年東京大学卒 工学博士 東京大学教授 専攻 橋梁工学
石 原 藤 次 郎 君	昭和5年京都大学卒 工学博士 京都大学教授 専攻 河海工学							
平 井 敦 君	昭和11年東京大学卒 工学博士 東京大学教授 専攻 橋梁工学							

昭和 40 年度土木学会賞候補ならびに吉田研究奨励金候補の募集

昭和 40 年 10 月

社団法人 土 木 学 会

本年度土木学会賞候補の募集ならびに吉田研究奨励金候補の募集をいたします。募集要項をご参照のうえふるって推薦または応募されますようお願いいたします。

(注) 本年度から表彰制度の改正により、土木学会賞として功績賞、技術賞、論文賞、吉田賞の4賞の表彰を行なうことになりました。

ただし、功績賞については公募いたしませんので別途関係者に推薦方を依頼します。

◎土木学会賞候補募集要項

種別	技 術 賞	論 文 賞	吉 田 賞
候補対象	土木事業の計画、設計、施工等に関し、土木技術の進展に顕著な貢献をなした画期的な総合的業績、もしくは一部業績 (例) ○○ 事業の総合技術 △△ 事業の施工 □□ に関する考察	(論文賞) 土木学会誌、論文集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩発展に独創的な業績をあげ、顕著な貢献をなした。 (論文奨励賞) 土木学会誌、論文集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩発展に寄与し、独創性と将来性に富むもので受賞者の年齢が原則として 35 才未満であるもの	コンクリートおよび鉄筋コンクリートならびにこれらに関連する優秀な研究、工事等を行なったと認められたものに授与し、その業績が土木学会の刊行物、コンクリートに関する学・協会の刊行物、その他これに類似の刊行物に研究論文、設計・施工・考案などの報告、またはそれらの要旨が登載されたものの中から選ばれる。
受賞候補者	個人または団体	本会の個人会員に限る。 過去の土木賞受賞者は既受賞者とし、重ねて同一の賞の候補者となることはできない。共著者(共同研究者)の中に非会員、既受賞者、その他受賞候補者となることができないものが含まれていることはさしつかえないが、受賞候補者に加えることはできない。	日本に国籍を有する個人または研究グループ。 ただし、原則としてすでに吉田賞を授与されたものを除く。
候補期間	昭和 39 年 1 月 1 日から昭和 40 年 12 月 31 日までの間にできた業績であって、日本国内において実施されたものに限る。	昭和 39 年 1 月 1 日から昭和 40 年 12 月 31 日までの間に発表されたもので、土木学会誌、論文集、その他土木学会の刊行物に登載されたもの、他、他学・協会、大学、官庁、会社などの刊行物に登載されたものなど内容審査に必要な資料の整っているものに限る。	
推薦(応募)の方法	会員、支部、土木事業に関連する学・協会、法人の推薦により別に定める様式による推薦書、候補業績要旨各一部を提出する。 なお、当該業績に関する参考資料を添付することは妨げない。 (推薦書および関係用紙は土木学会本部または各支部に準備してありますから必ずその用紙を使用して下さい)	会員、支部、その他一般の推薦または会員自らの応募により別に定める様式による推薦書1部を提出する。候補論文が土木学会誌、論文集以外に発表されている場合は推薦書に添えて本文および審査に必要な資料6部と別に定める様式による候補論文要旨1部を提出しなければならない。	会員、支部その他一般の推薦により、別に定める様式による推薦書1部を提出する。土木学会誌、論文集以外に発表された候補論文は推薦書に添えて本文および審査に必要な資料30部を提出しなければならない。
審査	表彰委員会において行なう。ただし審査の途上において推薦者またはその代理人に出席を求め説明をうけることがある。	論文賞選考委員会において行なう。なお必要あるときはさらに資料30部の追加提出を求められることがある。	吉田賞選考委員会において行なう。
表彰	第 52 回通常総会において行ない、賞牌、賞状を贈る。	第 52 回通常総会において賞牌、賞状、賞金を贈る。	第 52 回通常総会において賞牌、賞状、賞金を贈る。
締切日	昭和 41 年 1 月 20 日		
提出先	東京都新宿区四谷1丁目 社団法人土木学会表彰委員会	東京都新宿区四谷1丁目 土木学会論文賞選考委員会	東京都新宿区四谷1丁目 土木学会吉田賞選考委員会

◎吉田研究奨励金候補募集要項

- 候補対象：コンクリートおよび鉄筋コンクリートならびにこれらに関連する研究に従事するもので特に独創性と将来性に富むと認められたもの。ただし、原則として同一研究計画に対してすでに吉田研究奨励金を授与されたものを除く。
- 募集の方法：日本に国籍を有する個人または研究グループの応募による。
- 研究成果の報告：研究成果は文書により吉田賞選考委員会に提出するほか昭和 42 年 5 月下旬施行の第 22 回年次学術講演会において吉田研究奨励金を授与された研究であることを明らかにして発表しなければならない。
- 応募の方法：一定の様式による研究計画1部を提出する。
(計画書用紙は土木学会本部および各支部に準備してありますから必ずその用紙を使用して下さい)
- 審査：吉田賞選考委員会において行なう。
- 締切期日：昭和 41 年 1 月 20 日
- 提出先：東京都新宿区四谷1丁目 土木学会吉田賞選考委員会

土 木 学 会 表 彰 規 程

(総 則)

第1条 土木学会規則第34条による表彰はこの規程による。

(賞の種類)

第2条 表彰は次の土木学会賞(総称)を授与して行う。

① 功績賞 ② 技術賞 ③ 論文賞 ④ 吉田賞

(功績賞)

第3条 功績賞は、土木学会の会員であって、土木工学の進歩、土木事業の発達、土木学会の運営に顕著な貢献をなしたと認められた者に授与する。

(技術賞)

第4条 技術賞は土木事業の計画、設計、施工等に関し、土木技術の進展に顕著な貢献をなしたと認められた画期的な業績に授与する。

(論文賞)

第5条 論文賞は本会会員であって、土木学会誌、論文集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩発展に独創的な業績をあげ、顕著な貢献をなしたと認められたものに授与する。

(2) 論文奨励賞は、本会会員であって、土木学会誌、論文集、その他の刊行物に研究、設計、計画、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術に関する進歩発展に寄与し、独創性と将来性に富むものと認められ、受賞者の年齢が原則として満35才未満であるものに授与する。

(吉田賞)

第6条 吉田賞はコンクリートおよび鉄筋コンクリートならびにこれらに関連する優秀な研究工事等を行ったものに授与し、その業績が土木学会の刊行物、コンクリートおよび鉄筋コンクリートに関する学・協会の刊行物、その他これに類似の刊行物に研究論文、設計・施工・考案等の報告またはそれらの要旨が掲載されたものの中から選ばれる。

(委員会)

第7条 土木学会賞を審議決定するため次の委員会をおく。

① 表彰委員会 ② 論文賞選考委員会 ③ 吉田賞選考委員会

(2) 表彰委員会は功績賞および技術賞の受賞候補の選考をなし、論文賞および吉田賞選考委員会の具申を受けて、必要に応じて各賞間の調整を行い、土木学会賞受賞候補を決定する。

(3) 論文賞選考委員会は、論文賞候補の選考を行う。

(4) 吉田賞選考委員会は、吉田賞候補の選考を行う。

(5) 前記各委員会の構成、運営その他については別に内規で定める。

(表彰の時期、方法)

第8条 表彰は原則として毎年1回通常総会において賞牌、賞状等を授与する。

土木学会定款一部改正のお知らせ

第51回通常総会の議決に基づき文部大臣へ申請しておりました土木学会定款の一部改正については8月16日付で認可がありましたので同日をもって下記の通り改正し、実施する。

記

定款第4章、第12条、1号中「副会長3名」とあるのを「副会長4名」とする。

土木学会規則一部改正のお知らせ

7月24日付で評議員へ書面照会により、下記の通り改正することに決定しましたので8月2日から実施する。

記

規則第6章

(土木学会賞)

第34条 土木工学または土木事業に関して、著しい貢献をしたものに対し、土木学会賞(総称)を授与する。

(表彰)

第35条 前条に規定する土木学会賞に該当するもの以外で、土木学会の目的遂行に関して特に貢献したものを表彰することができる。

第36条 削除

以下1条ずつ繰上げる。

国際水理学会 (I.A.H.R.) 第11回大会報告会 ◀ 10月26日(火) 16.00~17.30 ▶

水理委員会では1965年にLeningrad(U.S.S.R.)で開催されました国際水理学会の第11回大会についての報告会を下記のとおり開きます。多数ご参加下さるよう、ご案内申し上げます。

1. 場 所: 土木学会図書館講堂

2. 報告者: (予定) 本 間 仁(東京大学) 伊 藤 剛(電力中央研究所)
林 泰 造(中央大学) 千 秋 信 一(電力中央研究所)の各氏

第10回水理講演会講演募集

第10回水理講演会は明年2月18日(金)~19日(土)の両日土木学会において開催いたします。今回の課題は下記の4つですので多数お申込み下さい。

1. 期 日: 1966年2月18日(金)~19日(土)
2. 会 場: 土木学会図書館講堂
3. 課 題: 1. 地下水とその流出 3. 乱れに関連する水理学上の諸問題
 2. 土砂輸送と河床変動 4. その他(自由課題)
4. 講演申込締切: 1965年11月10日(水)(期限厳守)
5. 原稿受付締切: 1965年12月20日(月)
6. その他

○原稿用紙は土木学会に請求して下さい。前刷はタイプ印刷にいたします。

○講演会終了後つきつづいて河川災害および水収支に関するシンポジウムを行ないます。

第2回衛生工学講演討論会開催について

◀ 11月7日(日) ▶

下記により第2回衛生工学講演討論会を開催いたしますのでふるって参加されますようご案内いたします。

1. 主 催: 土木学会衛生工学委員会
2. 会 場: 京都大学(電気総合館ホールの予定)
3. 講演内容: ①水質汚濁に関する諸問題 ②凝集および沈殿処理
 - A. 2成分懸濁系の凝集・フロック形成
 - B. 凝集に関する2,3の化学的要因
 - C. 傾斜板式遠心分離機による沈殿処理に関する2,3の基礎的研究
 - D. 沈殿池の基本現象に関する一考察 一場の乱れと粒子の沈降
 - E. トレーサーによる河川汚染の解析について
 - F. し尿の好気性処理に関する一考察

北 大 丹 保 憲 仁
東 北 大 松 本 順一郎・外
日本水道 吉 岡 榮 夫・外
東 大 石 橋 多 聞・外
京 大 岩 井 重 久・外
荏原インフィルコ 井 出 哲 夫・外

- G. 水質汚濁防止と下水道計画の最適化に関する研究
 H. 甘藷でんぷん廃液による大淀川の水質汚濁について
 I. 河床汚泥の水質汚濁におよぼす影響
 J. 加圧空気を利用した活性汚泥処理
 K. 水道水源汚染からみた大腸菌群 —BOD についての一考察—

- 京 大 末 石 富太郎
 宮 崎 大 小 林 南 治・外
 建 設 省 杉 木 昭 典・外
 栗田工業 関 川 泰 弘・外
 日本公害 洞 沢 勇・外

4. 懇 親 会：当日討論会終了後懇親会を開催いたします。ご希望の方は当日午前中会場にて受付をいたします（会費 500 円）。
 注：講演申込締切期日の関係で完全なプログラムは、次号にてお知らせします。

第 3 回岩盤力学に関するシンポジウム開催について ◀ 11 月 15 日(月)～16 日(火) ▶

下記により標記シンポジウムを開催いたしますから、ふるってご参加下さるようご案内申し上げます。

1. 期 日：1965 年 11 月 15 日(月), 16 日(火)

2. 会 場：土木学会土木図書館講堂

3. 講演題目：

11 月 15 日(月)

9.30～9.40	開会挨拶	土木学会岩盤力学委員会委員長	岡 本 舜 三	○印 講演者
9.40～10.20	(1) トンネルボーリングマシンについて	日本鉄道建設公団	天 野 礼 二	
10.20～11.00	(2) トンネルの支保工および覆工におけるひずみ測定結果について	建設省土木研	○長友成樹・今田 徹	
11.00～11.40	(3) 双設圧力トンネル応力状態について	名古屋大学	川 本 眺 万	
11.40～12.20	(1)～(3) 討 議			
12.20～13.20	昼 食			
13.20～14.00	(特別講演) 青函トンネルその後の調査について	日本鉄道建設公団	柏 谷 逸 男	
14.00～14.40	(4) 急速荷重を受ける岩の変形特性	東京大学	石 原 研 而	
14.40～15.00	休 憩			
15.00～15.40	(5) 成層体のせん断抵抗とダイレタンシーの異方性およびその機構	電力技研	○林 正夫・藤原義一	
15.40～16.20	(6) 岩盤掘削における対象岩盤の性質と調査法	鹿島建設	○佐藤忠五郎・梅田貞夫	
16.20～17.00	(4)～(6) 討 議			

11 月 16 日(火)

9.30～10.10	(7) 黒四ダムの基盤の挙動について	関西電力	横 田 潤	
10.10～10.50	(8) 高根ダムのロック テストについて	中部電力	大橋健一・○比企野昭一	
10.50～11.30	(7)～(8) 討 議			
11.30～12.10	(特別講演) 奈川渡ダムの岩盤試験について	東京電力	水 越 達 雄	
12.10～13.10	昼 食			
13.10～13.50	(特別講演) 岩石の変形に関する力学理論について	東大地震研	南 雲 昭 三 郎	
13.50～14.30	(9) 岩盤供試体の諸特性による現地岩盤のせん断強度の推定	電力技研	北 原 義 浩	
14.30～15.10	(10) 杭道発破の段発爆破について	鹿島建設	梅 田 貞 夫	
15.10～15.30	休 憩			
15.30～16.10	(11) ベンチカット掘削における振動軽減について	鹿島建設	肥 後 清 郎	
16.10～16.50	(9)～(11) 討 議			
16.50～17.00	閉 会 挨拶	土木学会岩盤力学委員会副委員長	畑 野 正	

◎講演概要：参加者の便宜のため当日会場にて頒布いたしますから、ご希望の方はお買求め下さい（B5判, 70 ページ程度, 450 円の予定）

構造物における高張力鋼とその接合に関する研究発表会 ◀ 11 月 26 日(金) ▶

—— 第 12 回橋梁・構造工学研究発表会 ——

共 催：日本学術会議橋梁・構造工学研究連絡委員会, 土木学会, 日本建築学会（幹事学会）

日 時：1965 年 11 月 26 日(金) 9.30～16.10

会 場：日本建築学会会議室（読売本社隣 建築会館 3 階）東京都中央区銀座西 3-1

会 費：聴講無料 講演概要：会場実費頒布

プログラム

9.30～9.35	○開 会 挨拶	日本学術会議橋梁・構造工学研究連絡委員会委員長	仲 威 雄	○印登壇者
9.35～9.50	①溶接 T-1 鋼柱の座屈実験	東大工総合試験所	西 野 文 雄	
9.50～10.05	②高張力鋼を用いた溶接角形断面柱の圧縮強さ	国鉄構設	田島二郎・国鉄鉄研	○伊藤文人
10.05～10.20	③高張力鋼部材の耐力	東大工建築	加藤 勉・○秋山 宏	
10.20～10.35	④高張力鋼の繰返しひずみ特性	東大工土木	奥村敏恵・○堀川浩甫・八幡製鉄	斉藤達郎
10.35～10.50	(討議 ①～④ 休憩)			

- 10.50~11.05 ⑤80 キロ鋼を用いたトラス弦材施工性試験 建設省土研 多田安夫・道路局 ○篠原洋司
 10.05~11.20 ⑥多数の高張力鋼棒を結束した引張材の実験研究(特に格点接合について) 日本鋼管 能登尚平・○中山義昭・三神昭吾
 11.20~11.35 ⑦ Nb 添加高張力鋼の特性について 八幡製鉄 榎 藤 永
 11.35~11.45 (討議 ⑤~⑦)
 11.45~13.00 (昼食・休憩)
 13.00~13.15 ⑧耐候性鋼材の特性について 富士製鉄 久田清明・安永和美・小池与作・○大野 章
 13.15~13.30 ⑨超高張力鋼線の遅れ破壊現象 神戸製鋼 辻村 昂
 13.30~13.45 ⑩80キロ鋼部材の高力ボルト摩擦接合について 建設省土研 ○多田安夫・道路局 篠原洋司・土研 山木崇史
 13.45~13.55 (討議 ⑧~⑩)
 13.55~14.10 ⑪高張力ボルト引張継手の力学的性状について 京大工土木 小西一郎・○山川純雄
 14.10~14.25 ⑫新十三大橋の高力ボルト継手に関する実験的研究 京大工土木 小西一郎・大阪市土木局 近藤和夫・磯尾汀一・○加藤隆夫・高田機工 欠幡 健
 14.25~14.40 ⑬高張力ボルト引張接合に関する研究 東大工建築 仲 威雄・加藤 勉・○田中淳夫・森田耕次
 14.25~14.55 ⑭新しい高張力ボルトの生産管理及び施工管理について(富士銀行本社) 東大工建築 加藤 勉・三菱地所 岡田 啓・大成建設 ○鈴木健夫・八幡製鉄 岡松真之・桜田機工 吉本昌一
 14.55~15.10 (討議 ⑬~⑭ 休憩)
 15.10~15.25 ⑮高張力異形鉄筋の土木構造への利用に関する基礎研究 土木学会コンクリート委員会委員長 ○園分正風・同幹事 河野通之
 15.25~15.40 ⑯高強度鉄筋の重ね継手に関する研究 明大工建築 小倉弘一郎
 15.40~15.55 ⑰高張力異形鉄筋のアーク溶接 早大工建築 ○鶴田 明・武蔵工大建築 木村富夫
 15.55~16.05 (討議 ⑮~⑰)
 16.05~16.10 閉会のことば 日本学術会議橋梁・構造工学研究連絡委員会 幹事 平 井 敦

第12回海岸工学講演会

◀ 11月18日(木)~19日(金) ▶

第12回海岸工学講演会はつぎの日程により名古屋市において開催いたしますので多数ご参加下さるようご案内いたします。なお、講演集はB5判活版印刷で目下編集中です。

1. 場 所: 愛知県中小企業センター(名古屋市守山区堀内町4の31・電 名古屋 56-4121)
2. 講 演 会: 1965年11月18日(木)~19日(金)
3. 講演題目:

第1日(11月18日・木)

○印講演者

- 9.00~9.05 委員長開会挨拶 土木学会海岸工学委員会委員長 本 間 仁
 ① 9.05~9.20 表面波の二次干渉 II 運輸省港湾技術研究所 浜田 徳一
 ② 9.20~9.35 湾内の水面傾斜とサーフビートの発生について 気象研究所 ○宇野木早苗・磯崎一郎
 ③ 9.35~9.50 湾および河川網に侵入する津浪の計算 運輸省港湾局○堀口孝男・日本港湾コンサルタント 高 隆二
 ④ 9.50~10.05 異常高潮位の発生に関する研究(天文潮と気象潮の重ね合せについて) 運輸省港湾技術研究所 ○川上善久・谷本勝利
 ⑤ 10.05~10.20 砕波地点の設計水位について 日本大学 久宝 保・○竹沢三雄
 10.20~10.35 討 議
 10.35~10.45 休 憩
 ⑥ 10.45~11.00 底面摩擦応力計の試作について 神戸大学 松製順三郎・○川谷 健
 ⑦ 11.00~11.15 現地海岸における海底摩擦係数について 京都大学防災研究所 岩垣雄一・○柿沼忠男・宮井 宏
 ⑧ 11.15~11.30 海底摩擦による渡高減衰の基礎的研究(3)(一層流境界層方程式の非線形項の影響について) 京都大学防災研究所 岩垣雄一・○土屋義人・陳 浩雄
 ○ 11.30~11.45 振動流中におかれた円柱に働く抗力と渦の発生 電力中央研究所・○日野幹雄・日野和子
 11.45~12.00 討 議
 昼 休 み
 ○ 13.00~13.15 風波スペクトルの発生、発達と海面摩擦力に関する研究(3) 電力中央研究所 日野幹雄
 ⑩ 13.15~13.30 波の方向分析に関する試法 運輸省港湾局 堀口孝男
 ⑪ 13.30~13.45 浅海風波の数値計算 九州大学 井島武士
 ⑫ 13.45~14.00 水圧変動波形と水面波形の相関性 東京大学 本間 仁・堀川清司・○小森修蔵
 ⑬ 14.00~14.15 波による水中圧力の変動について 九州大学 光易 恒・運輸省港湾技術研究所 ○広本文泰
 14.15~14.30 討 議
 14.30~14.40 休 憩
 ⑭ 14.40~14.55 浅海波および深海波の重複波の圧力式 大阪市大 永井荘七郎
 ⑮ 14.55~15.10 重複波における双峰波型圧力の出現について 運輸省港湾技術研究所 ○合田良夷・柿崎秀作
 ⑯ 15.10~15.25 砕波による衝撃的波圧 九州大学 光易 恒
 ⑰ 15.25~15.40 岩船港の変遷 新潟県土木部 荒田哲弥・日本港湾コンサルタント ○高 隆二
 ⑱ 15.40~15.55 備讃瀬戸の漂砂について 運輸省港湾技術研究所 佐藤昭二・赤木正典・○田中則男・中野拓治・入江 功
 15.55~16.10 討 議
 16.10~16.25 休 憩
 16.25~16.55 映 画

第2日(11月19日・金)

- ⑳ 9.00~9.15 海水交流の一解析法 農業土木試験場 ○中村 充・白石英彦・佐々木泰雄

- ④ 9.15～9.30 定常流れにおける塩分の鉛直分布について 京都大学農学部 南 勲・○田中雅史
 ⑤ 9.30～9.45 水温躍層面におよぼす風の影響 電力中央研究所 和田 明
 ⑥ 9.45～10.00 入江内における冷却水取水放水に関する研究 電力中央研究所 ○和田 明・中川友康・片野尚明
 ⑦ 10.00～10.15 討 議
 ⑧ 10.15～10.25 休 憩
 ⑨ 10.25～10.40 小櫃川河口湖堤防の海水浸透問題について 千葉県土木部 三宅康夫・○高橋淳一
 ⑩ 10.40～10.55 石狩川河口の研究(Ⅱ) 北海道大学 福島久雄・柏村正和・八坂 功・高橋 将・大谷守正
 ⑪ 10.55～11.10 河口閉塞に関する基礎的研究(第1報) 名古屋大学 榎木 享
 ⑫ 11.10～11.25 討 議
 昼 休 み
 ⑬ 12.30～12.45 汀線より陸側にある堤防への波のうちあげについて 名古屋工業大学 細井正延・石田 昭
 ⑭ 12.45～13.00 長波について(一様傾斜面へのうちあげ高) 建設省土木研究所 首藤伸夫・松村圭二
 ⑮ 13.00～13.15 海岸堤防への波のうちあげ高 建設省土木研究所 豊島 修・首藤伸夫・橋本 宏
 ⑯ 13.15～13.30 風洞水槽を用いた海岸堤防の越波に関する研究(2)(鉛直堤の越波におよぼす風の影響に関する実験) 京都大学防災研究所 岩垣雄一・○井上雅夫・大堀晃一
 ⑰ 13.30～13.45 筒型透過性防波堤の水理特性について 中央大学 林 泰造・大成建設 狩野徳太郎・白井増次郎・中央大学 服部昌太郎
 ⑱ 13.45～14.00 討 論
 ⑲ 14.00～14.10 休 憩
 ⑳ 14.10～14.25 波による防波堤の振動について(羽幌港における観測結果) 北海道土木試験所 ○村木義男・高島和夫
 ㉑ 14.25～14.40 防波堤の安定に関する一考察 大阪工業大学 ○久保弘一・玉井佐一
 ㉒ 14.40～14.55 鋼管防波堤に関する基礎的研究(その1) 大阪市立大学 ○永井荘七郎・福垣敏史・時川和夫
 ㉓ 14.55～15.10 混成防波堤捨石部の形状効果に関する研究(第2報) 大阪工業大学 久保弘一・○玉井佐一・井田保夫
 ㉔ 15.10～15.25 討 議
 ㉕ 15.25～15.35 休 憩
 ㉖ 15.35～15.50 特殊消波機構を有するブロックの実験的研究 神戸大学 田中茂一・杉本修一
 ㉗ 15.50～16.05 水深の大きい埋立地消波護岸に作用する波浪対策に関する一研究 神戸大学 田中茂一・杉本修一
 ㉘ 16.05～16.20 サンドマスタック注入の捨石の安定に関する実験的研究 運輸省第3港建 ○加川道男・久保 直
 ㉙ 16.20～16.35 サンドマスタック堤の揚圧力について 運輸省第3港建 加川道男・○中丸博信
 ㉚ 16.35～16.50 討 議
 ㉛ 16.50～17.00 休 憩
 ㉜ 17.00～17.30 映 画

4. 見学会：1965年11月20日(土)9.00～16.00

名古屋栄町テレビ塔下集合(9.00)～日光川樋門～鍋田干拓～名古屋高潮防波堤～日本板ガラス 四日市工場～四日市港務局～四日市港～名古屋駅前解散(16.00)

5. 見学会参加費：500円(バス代および屋食代)

6. 申込先：東京都新宿区四谷1丁目土木学会海岸工学講演会係

注：参加者多数の場合は申込受付順とします。

7. 宿泊案内：日本交通公社名古屋駅前営業所(名古屋市笹島町1の18・電 名古屋 57-7191)

で10月1日より10月20日まで料金前納でクーポン券を用意致しますのでご利用下さい(一泊2食付2000円より)。

関東支部行事案内(東京都新宿区四谷1丁目 土木学会事業課内・電話 東京 351-4133)

(1) 第1回電子計算機講習会 ◀ 11月16日(火),17日(水),18日(木) ▶

下記によって第1回電子計算機講習会を開催いたします。定員が少ないのでお早くお申込み下さい。

1. 会 場：11月16日(火) 土木学会土木図書館5号室

11月17日(水) 沖電気株式会社講堂

11月18日(木) 同

2. 定 員：20名(先着順)

3. 参 加 費：10000円(教材費を含む)

4. 申 込：11月10日(水)までに参加費を添えてお申し込み下さい。

5. プログラム：

11月16日(火)

10.00～12.00 ①電子計算機の展望

山本 欣子

②各社製計算機の説明

③電子計算機の概要

中村 慶一

13.00～16.00 アルゴリズム分布の概要について

11月17日(水)

10.00~12.00 アルゴリズムによる初等的プログラミング

13.00~16.00 実 習

11月18日(木)

10.00~12.00 アルゴリズムによるプログラミング

13.00~16.00 実 習

(2) コンクリート混和剤に関するゼミナール

◀ 12月8日(木) 10.00~16.00 ▶

— その製品と効用について — *

コンクリート混和剤に関するゼミナール形式による講習会を開催いたしますから、ふるってご参加下さい。

1. 会 場：土木学会土木図書館講堂
2. 定 員：180名(先着順)
3. 参加費：500円(教材費をふくむ)
4. 申 込：11月30日(火)までに参加費を添えてお申し込み下さい。
5. プログラム：次号に詳細発表しますが、講師は、国分正胤東大教授ほか各部門の使用者側より講師数名が当たる予定です。

関西支部行事案内 (大阪市東成区中道元町1丁目149番地
電 大阪 981-2510・振替口座 大阪 82599 番)

(1) 関西支部年次学術講演会(昭和40年度)

◀ 11月14日(日) 9.00~17.30 ▶

1. 場 所：京都大学工学部土木総合館 電・京都(77)8111番
京都市左京区吉田本町 市電百万遍下車

2. 講演題目および講師：

A. 特別講演 (12.55~13.50) 土木 201 室

- 12.55~13.00 支部長挨拶 関西支部長 玉 井 正 彰
13.00~13.50 京都大学名誉教授 経博 黒 崎 稔

B. 一般講演

I. 構造力学, 構造工学, 橋梁工学, コンクリート工学

午前(第1会場)

9.00~10.30

- ①色塑性に関する基礎的考察 京都大学工学部 工博 丹羽義次・工修 小柳 洽・京都大学大学院○守 国夫
- ②応力波の透過に関する考察 京都大学工学部 工博 丹羽義次・工修○佐藤 誠
- ③ソイルセメントの持続応力-ひずみ関係についての一考察 京都大学工学部 工博 岡田 清・工修 川村瀧紀・京都大学大学院○吉岡伸晃
- ④立方体供試体による3軸試験について 京都大学工学部 工博 丹羽義次・島津製作所 平松良三・京都大学大学院○平島健一
- ⑤つり橋の自由振動型の連成に関する理論的研究 京都大学工学部 工博 白石成人
- ⑥つり橋の設計計算に関する考察 京都大学工学部 工博 山田善一・京都大学大学院○後藤洋三・伊佐隆善

討 議

10.30~12.00

- ⑦長大つり橋構造の耐震解析に関する基礎的研究 京都大学工学部 工博 小西一郎・工博 白石成人・京都大学大学院○野口昌紘
- ⑧つり橋のピアーとタワーの連成振動と耐震設計への適用について 京都大学工学部 工博○山田善一・井汲 久・間組 小寺修二
- ⑨鋼管橋脚の振動実験(その1) 兵庫県道路課 小笠原弘・猪口 弘・神戸大学工学部 工博 如中元弘・谷河正也
- ⑩一柱式橋脚の振動性状について 京都大学工学部 工博 後藤尚男・京都大学大学院 工修 亀田弘行・○小国俊樹
- ⑪翼壁付井筒の水平抵抗に関する2,3の実験的考察 京都大学工学部 工博 後藤尚男・国鉄門司管理局 工修 西川恭爾・
京都大学工学部 秋吉 卓・京都大学大学院○江口 肇
- ⑫水中橋脚の動水圧分布について 京都大学工学部 工博 後藤尚男・京都大学大学院 工修 土岐憲三・京都大学工学部 工修○横山康夫

討 議

昼 食

午後(第1会場)

14.00~15.45

- ⑬差動トランスを用いた歪計による構造物応力の積算について 大阪工業大学○岡村宏一・大阪設計コンサルタンツ 竹村泰弘
- ⑭鉄筋コンクリート橋の実態について 大阪工業大学 岡村宏一・大阪設計コンサルタンツ○吉田公憲
- ⑮曲線材の変形の基礎方程式 大阪大学工学部 工博 安宅 勝・○波田凱夫
- ⑯曲線橋の極限強度について 大阪市立大学工学部 工博 小松定夫・工修○向山寿孝
- ⑰曲線格子桁の極限荷重について 京都大学工業教員養成所 工博 米沢 博・○三上市蔵
- ⑱高張力ボルト引張接合におけるボルトの付加張力について 京都大学工学部 工博 小西一郎・工修 山川純雄・京都大学大学院○佐岡暖也

⑩高張力鋼溶接継手の疲労強度に対するブローホールの影響について
討 議

京都大学工学部 工博 小西一郎・工修○山川純雄・本田博良

15.45~17.30

⑪既設水圧鉄管の二重管構造による補強工法
⑫RC, PC橋の仮設支保工

三菱重工神戸造船所○矢野 謙・日本軽金属KK 内藤幸雄
大同機工KK 小田朋郎

⑬モルタルに対する熱気養生の効果について
⑭各種コンクリートにおける収縮性、透水性の比較
⑮高強度ストランドの付着強度について
⑯床版用人工軽量コンクリートに関する2,3の実験

大阪工業大学 児玉武三・○鶴飼九夫
大阪工業大学 児玉武三・○仁枝 保
神戸大学工学部 工修○藤井 学・神戸大学大学院 在賀良助・梶村雄佑

⑰人工軽量鉄筋コンクリートはりの曲げ試験について

京都大学工学部 工修 西林新蔵・阪神高速道路公団 工修 今井宏典・○吉原克衛・大阪セメント 中野錦一
京都大学工学部 工修 西林新蔵・京都大学大学院○小林和夫・
阪神高速道路公団 吉原克衛・大阪セメント 中野錦一

討 議

II. 水理学, 水文学, 河川工学, 海岸工学

午前 (第2会場)

9.00~10.30

①流体の運動に対する変分原理の適用
②水面形の計算法に関する2,3の考察
③水平床に設置された鉛直水門の流出機構について
④開水路流れにおける拡散過程について (第6報) —等方性一様乱流場におけるLagrange 相関の特性—

京都大学工学部 工博 平岡正勝・工修○田中幹也
京都大学工学部 工博 岩佐義朗・京都大学大学院○山口嘉之
京都大学工学部 工博 岩佐義朗・工修○名合宏之

⑤開水路流れにおける拡散過程について (第7報) —せん断乱流場における拡散特性に関する実験的研究—
⑥開水路急拡部の水理学的性状に関する研究 (はく離領域の平均長について)

京都大学工学部 工博 岩佐義朗・工修○今本博健
京都大学工学部 工博 岩佐義朗・工修 今本博健・京都大学大学院○井上和也
京都大学工学部 工博 石原藤次郎・京都大学大学院 工修○志方俊之

討 議

10.30~12.00

⑦底格子棚分水工の水理機能に関する考察

京都大学工学部 工博 岩佐義朗・京都大学防災研究所 工修 中川博次・京都大学大学院 工修○宇民 正

⑧洪水流に関する実験的研究
⑨開水路弯曲流の水理学的特性に関する研究 (その7)
⑩横越流ぜきによる分水機能に関する実験的考察
⑪泥流中におかれた粒子の移動について
⑫雨水の地中浸透に関する実験的研究

京都大学防災研究所 工博 芦田和男・工修○高橋 保
京都大学防災研究所 工修 村本嘉雄
京都大学防災研究所 工修 中川博次
京都大学工業教員養成所 大同淳之
京都大学防災研究所 工博 石原安雄・京都大学大学院○馬場洋二

討 議

昼 食

午後 (第2会場)

14.00~15.45

⑬非ニュートン流体の粘度について
⑭浮遊流砂に関する実験的研究
⑮砂漣の形成に及ぼす側壁の影響
⑯差圧計を利用した土砂の粒度分析法について
⑰河床付近における砂粒の運動機構に関する研究
⑱貯水池堆砂量の予測についての一試案
⑲高潮発生装置による発生波の特性について

京都大学工業教員養成所 大同淳之・神戸市立六甲工業高専○日下部重幸
京都大学防災研究所 工博 芦田和男・京都大学大学院○道上正規
京都大学防災研究所 工博 芦田和男・○田中祐一朗
京都大学防災研究所 工博 土屋義人・○奥村武信
京都大学防災研究所 工博 土屋義人・○角野 稔
大阪大学工学部 工博 室田 明・大阪大学大学院○端野道夫
大阪大学工学部 工博 室田 明・工修 村岡浩爾・大阪大学大学院○島田社二郎

討 議

15.45~17.30

⑳海岸波浪スペクトルの周波数分析器による解析
㉑波の漕上に関する二, 三の実験
㉒クノイド波に関する実験的研究
㉓逆こう配法面の波の漕上, 反射および波圧について
㉔波高減衰率と海底摩擦係数との関連について
㉕築崎漁港の漂砂実験
㉖若狭高浜海岸の底質特性について

京都大学防災研究所 工博 岩垣雄一・理修 柿沼忠男・京都大学大学院○宮井 宏
京都大学防災研究所 工博 岩垣雄一・井上雅夫・京都大学大学院○大堀晃一
京都大学防災研究所 工博 岩垣雄一・京都大学大学院○細見昌彦
京都大学防災研究所 工博 岩垣雄一・○井上雅夫・京都大学大学院 吉川昌宏
京都大学防災研究所 工博 土屋義人・工修○陳 活雄
京都大学防災研究所 野田英明
京都大学防災研究所 野田英明・○芝野照夫

討 議

III. 土質力学, 土質工学, 基礎工学

午前 (第3会場)

9.00~10.30

①砂柱を含む粘土の応力と変形について
②非定常浸透流における土の有効間げき率の評価について
③硬質粘土の立方体供試体を用いた高圧三軸試験
④砂の応力と変位に関する一考察
⑤粘土の応力緩和について
⑥高圧下で圧密された粘土の力学性について

京都大学工学部 工修 松尾 稔・京都大学大学院○久我 昂
京都大学工学部 工修○宇野尚雄・京都大学大学院 山内勇喜男
京都大学工学部 工博 赤井浩一・京都大学大学院○森 寛昭
京都大学工業教員養成所 工博 久保田敬一・○佐藤忠信
京都大学防災研究所 工博 村山朔郎・京都大学大学院○飯田邦夫
京都大学防災研究所 工修○八木則男・京都大学大学院 栗原則夫

討 議

10.30~12.00

- ⑦カオリン粘土の圧密特性
- ⑧遠心力装置による自重圧密実験
- ⑨軟かい粘土の動的特性
- ⑩土の動摩擦について
- ⑪振動中の砂の比抵抗変化について
- ⑫タンク基礎地盤の振動特性について

京都大学防災研究所 工修 軽部大蔵
 大阪市立大学工学部 工博 三笠正人・大阪市立大学大学院○高田直俊・岸本好弘
 京都大学防災研究所 工博 村山朔郎・京都大学大学院○中崎英彦
 京都大学工学部 工博 皇昭治郎・工修○室 達朗
 立命館大学理工学部 工博 畠山直隆・明石工業高等専門学校 工修○福本武明
 神戸大学工学部 工博○谷本喜一・岩崎照昌

討 議
 昼 食

午後(第4会場)

14.00~15.30

- ⑬土の透水性規制に関する研究
- ⑭振動杭打装置の改良に関する研究
- ⑮振動機械の杭基礎設計例
- ⑯ゴム履帯の性能について
- ⑰毛細管工法に関する研究(第6報)一特に毛細管体の形状と性能について一
- ⑱基礎の引揚抵抗力について

京都大学工学部 工博 松尾新一郎・○塚原佛二
 近畿地方建設局 小田容造
 八幡製鉄 坂田隆雄・奥村組○山田明男
 京都大学工学部 工博 皇昭治郎・京都大学大学院○細井 武
 京都大学工学部 工博 松尾新一郎・○中沢重一
 京都大学工学部 工修 松尾 稔・京都大学大学院○新城俊也

討 議

15.30~17.15

- ⑲ロックテストについての二、三の検討
- ⑳圧力トンネルのライニングの強さに関する一研究
- ㉑東山トンネルにおける地圧測定について
- ㉒浸透による粘土の脱水について
- ㉓タイ国中央平原における地下水開発とそれに伴う土質改良について
- ㉔花崗岩の風化と地形・岩質の関係
- ㉕土中射出水による土質改良に関する基礎的研究

大阪大学工学部 工博 伊藤富雄・大阪大学大学院○藤井清可
 大阪大学工学部 工博 伊藤富雄・大阪大学大学院○山崎武則
 鴻池組 飾森敬二・工修○山田昌昭
 大阪市立大学 工博 三瀬 真
 京都大学工学部 工博 松尾新一郎
 京都大学工学部 工博 松尾新一郎・理修○西田一彦・愛媛大学工学部 理博 山下親平
 京都大学工学部 工博 松尾新一郎・京都大学大学院○木暮敬二・沢 孝平

討 議

IV. 交通工学, 土木計画, 衛生工学

午前(第4会場)

9.00~10.30

- ①旅客輸送網計画に関する一考察
- ②路線別輸送需要予測に関する一考察
- ③交通路線連関の定式化とその応用について
- ④連続吸収マルコフ過程による交通密度の解析
- ⑤セミマルコフ過程としてみた交通流について
- ⑥Dynamic Programming による工程管理に関する一考察

京都大学大学院 工修 河上省吾
 京都大学工学部 天野光三・京都大学大学院○森 真彦
 京都大学工学部 天野光三
 京都大学工学部 工博 佐佐木 綱・京都大学大学院○松井 寛
 京都大学工学部 香川一男
 京都大学工学部 工博 吉川和広・京都大学大学院○赤城慎一

討 議

10.30~12.00

- ⑦一方通行街路系の効率について
- ⑧追いこし現象のシミュレーション
- ⑨信号交差点付近で発生する衝撃波について
- ⑩製鉄所における貯鉱場の規模決定法に関する研究
- ⑪港湾能力の算定に関する一考察
- ⑫飛行場の誘導路計画に関する一考察

名古屋大学工学部 工博 毛利正光・大阪市立大学工学部 工修○西村 昂
 京都大学工学部 工博 米谷栄二・京都大学大学院○住田陸夫
 京都大学工学部 工修 明神 証
 京都大学工学部 工博 吉川和広・京都大学大学院○柏村正樹
 京都大学工学部 工博 長尾義三・○寺戸兼介
 京都大学工学部 工博 長尾義三・京都大学大学院○戸島英樹

討 議
 昼 食

午後(第3会場)

14.00~15.45

- ⑬高速自動車トンネルの空気汚染に関する研究
- ⑭大阪市内の騒音分布とその被害の実態
- ⑮1次化連立式による管網解法の応用例
- ⑯遠心脱水機による汚泥の脱水機構について
- ⑰河川表流水の下水性有機汚染についての水処理上の問題点について
- ⑱河口部の二層流における物質収支について
- ⑳貯水域内の混合現象に関する一考察

京都大学工学部 医博 庄司 光・医博 山本剛夫・○西田耕之助
 京都大学工学部 医博 庄司 光・医博 山本剛夫・○中村隆一
 京都大学工学部 工博 末石富太郎・○雄倉幸昭
 大阪工業大学 工博 川島 普
 大阪工業大学 工博 宮北敏夫・木原 敏・○上木紀夫
 京都大学工学部 工博 合田 健・○森下典昭
 京都大学工学部 工博 高松武一郎・京都大学大学院○内藤正明・井上孝也・宮本佳紀

討 議

15.45~17.30

- ㉑混和槽における flocc の破壊限界について
- ㉒周辺流入式沈でん池の模型実験
- ㉓活性汚泥法高効率処理に関するプラント実験
- ㉔微量有機元素定量装置を用いた活性汚泥に関する研究
- ㉕工場排水のメタン醗酵に関する研究
- ㉖活性汚泥の浄化能力に関する研究
- ㉗原子力施設における地下水の汚染について

大阪工業大学 工博 宮北敏夫・○木原 敏
 京都大学大学院 郎 依 桓
 京都大学工学部 工博 合田 健・中西 弘・京都大学大学院○藤原正弘・田井慎吾・大賀功夫
 京都大学工学部 工博 岩井重久・大塩敏樹 京都大学大学院○楠田武司
 京都大学工学部 工博 岩井重久・大塩敏樹 京都大学大学院○出納正彬
 京都大学工学部 中西 弘・京都大学大学院○内田信一郎・大賀功夫
 京都大学工学部 工博 井上頼輝・京都大学大学院○西牧研社

討 議

3. 講演概要頒布：論文抄録集（B5判・オフセット印刷）をつぎのとおり頒布いたします（ただし 360 部限り申込先着順）。
正会員 200 円，学生会員 100 円，非会員 300 円，講演者（○印）は無料，ただし会員テキスト割引券は使用できません。
テキスト前送希望者は送料概算 100 円ご送付下さい（あまれば切手にて返却，不足の時は請求いたします）。
4. 聴 講：無料，来聴歓迎
5. 申込方法：講演概要希望者は 10 月 25 日（月）までに勤務先，連絡先，会員の種別，氏名および講演会に出欠を明記のうえ，上記講演概要代金および送料（前送希望者のみ）を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。

（2）第 1 回見学会（名阪国道見学会）

◀ 11 月 16 日（火）～17 日（水）▶

1. 見学先：名阪国道工事，上野市内観光，桔梗ヶ丘団地，赤目，室生寺
2. 集 合：11 月 16 日 9 時 15 分までに国鉄大阪駅西口へ集合
3. 行 程：（第 1 日） 9 時 30 分大阪駅発—阪奈—11.00 天理榎本—米谷橋—天理榎本 11.30—12.10 福住，屋食 13.00 発—13.15 桜橋—13.40 三ヶ谷インター—14.00 大西インター—14.10 柳瀬橋—14.40 名張川—上野—15.50 上野城，芭蕉庵見学—16.50 発—17.20 三田清旅館着（宿泊 上野市赤坂 電・上野 300 番）
（第 2 日） 9.00 上野発—市内観光（鍵屋の辻，忍者屋敷，糞虫庵）—10.30 桔梗ヶ丘団地見学 11.00 発—赤目，屋食 13.00 発—14.30 室生寺 15.00 発—八木—奈良—阪奈—17.30 大阪駅着解散の予定
4. 参加費：3000 円
5. 定 員： 50 名
6. 申込期限：1965 年 10 月 30 日（土）
7. 申込方法：参加希望者は勤務先，連絡先，および氏名を明記のうえ参加費 3000 円を添えて 10 月 30 日（土）までに土木学会関西支部へお申し込み下さい。ただし申込期限内でも定員に達した時は先着順で決めますから早く申し込んで下さい。参加者には参加証をお送りしますから当日は必ずご持参下さい。
8. その他：当日の食事は用意いたします。

（3）学生映画会（第 1 回）

◀ 10 月 16 日（土）13.30～▶

1. 場 所：大阪市職員研修所第一講義室（元大阪市立大学工学部南学舎）電・大阪（341）4271
大阪市北区南扇町 16 大阪市水道局庁舎西側
2. 上映映画：①東京—大阪 3 時間総集編（16 ミリカラーシネスコ 30 分）②神戸の埋立（空をゆくコンペヤー）（16 ミリカラーシネスコ 25 分）③新生駒隧道（16 ミリカラーシネスコ 30 分）④NKK—道路用合成術破壊試験（16 ミリカラーシネスコ 15 分）
3. 定 員：200 名
4. 参加費：無料，正会員の方の参加も歓迎します。

（4）第 1 回学生見学会

◀ 10 月 23 日（土）▶

1. 見学先：天ヶ瀬ダム，天ヶ瀬発電所，南郷洗堰，琵琶湖大橋，名神高速道路（栗東～京都南）
2. 参加者資格：土木学会学生会員（ただし申込期日までに入会手続きのすんだものおよび大学院学生の正会員も有効）
3. 集 合：（A 班） 10 月 23 日 12 時 15 分までに 京都大学土木教室
（B 班） " " 立命館大学土木教室
4. 行 程：12 時 30 分京大・立命大発—13.30 天ヶ瀬ダム，発電所見学 14.20 発—15.10 南郷洗堰見学 15.25 発—16.05 琵琶湖大橋見学 16.35 発—16.55 栗東インター—17.15 京都南インター—17.25 京都駅着解散
5. 参加費：50 円
6. 定 員：180 名
7. 申込期限：1965 年 10 月 8 日（金）
8. 申込要領：参加希望者は学校名，氏名および集合場所（A 班，B 班の区別）を明記し参加費 50 円を添えて学校の学生班長を経由のうえ 10 月 8 日（金）までに土木学会関西支部へお申し込み下さい。
申込期限内に定員を超過した時は学校別に員数の割当てをいたしますからおぶくみおき下さい（学生班長は申込先順位番号を付して一括申し込んで下さい）。

(5) 人工軽量骨材コンクリート講習会

共催：日本材料学会コンクリート研究会・日本建築学会近畿支部・土木学会関西支部

1. 期 日：1965年11月25日(木) 講義・26日(金) 実習
2. 場 所：大阪工業大学 電・大阪(952) 3131 大阪市旭区大宮北之町 市電大宮町下車
3. 題目と講師：(第1日)

9.30~10.15	①人工軽量骨材使用のさう勢	阪大教授 工博 奥 島 正 一
10.15~11.00	②人工軽量骨材の製造と品質	名工大教授 工博 桧 山 真 平
11.00~12.00	③人工軽量骨材コンクリートの配合設計	京大助教授 西 林 新 蔵
13.00~14.30	④人工軽量骨材コンクリートの物理的性質	名大教授 工博 小 阪 義 夫
14.30~15.30	⑤人工軽量骨材コンクリート構造物の設計上の問題点	京大教授 工博 大 車 孝 照
15.30~17.00	⑥人工軽量骨材コンクリートの施工	KK大林組 青山 幹・阪神高速道路公団 今井宏典

実 習：(第2日) 実習は現在市販の人工軽量骨材数種を用いて行ないます。また普通天然骨材使用コンクリートとの比較も行ないます。

- ①骨材の性質(粒度, 比重, 吸水率等の測定実習) ②生コンクリートの性質(ワーカビリティ測定, 成形方法等の実習)
 ③固まったコンクリートの性質(圧縮強度, 引張強度, 曲げ強度, 弾性係数等の測定実習)

4. 定 員：講義 500名, 実習 100名
5. 会 費：講義 1000円(教材1部を含む) 実習 1000円(ただし先着順 100名限り)
7. 申込期限：1965年11月15日(月)
8. 申 込 先：日本材料学会講習会係 電・京都(77) 1912 京都市左京区吉田泉殿町1の101 振替口座 京都 26625 番

(6) 耐震設計講習会開催について

◀ 12月15日(水)~16日(木) ▶

場 所：大阪化学技術センター 定 員：300名 詳細については11月号に掲載いたします。

(付) テキスト頒布について

セメントコンクリート	頒価 450円	送料 80円	
海岸工学の最近の進歩	〃 700円	〃 110円	
高速度計算機の土木工学への応用	〃 500円	〃 80円	

上記テキストご希望の方は頒価に送料を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。

西部支部行事案内 (福岡市舞鶴町1丁目4の1・電 福岡 41-1972)

岩石力学とその施工法への応用講習会

◀ 11月26日(金)~27日(土) ▶

共 催：日本材料学会岩石力学部委員会・日本材料学会九州支部

協 賛：九州鉱山学会・土質工学会九州支部・土木学会西部支部

1. 会 場：福岡市市民会館(福岡市天神5丁目1の23, 電 福岡 76-6567)

2. 題目および講師

第1日 (11月26日・金)

9.00~10.00	開会の辞	日本材料学会九州支部支部長 谷 村 瀬
10.00~11.00	岩石の破壊の条件	同志社大工 西 原 正 夫
11.00~12.00	現地岩盤試験	九州電力 青 木 謙 三
13.00~14.00	岩石に及ぼす水の影響について (昼 食)	鉄道技研 高 橋 彦 治
14.00~15.00	基礎岩盤の改良処理工法について	建設省土建研 石 井 文 雄
15.00~17.00	斜面の安定工法について	九 大 工 山 内 豊 聡
	映画 黒四ダム	関西電力提供

第2日 (11月27日・土)

9.00~10.00	鉱山における地圧制御の最近の趨勢	京 大 工 平 松 良 雄
10.00~11.00	岩盤力学の最近の動向	名 大 工 川 本 脩 万
11.00~12.00	岩盤調査における物理探査法 (昼 食)	京 大 工 吉 住 永 三 郎
13.00~14.00	最近のトンネル掘削技術	鉄建公団 天 野 礼 二
14.00~15.00	爆破に関する最近の技術	鹿島建設 佐 藤 忠 五 郎
15.00~16.30	映画 北陸トンネル	国 鉄 提 供

閉 会 の 辞

日本材料学会岩石力学部門委員会委員長 横 山 次 郎

- 3. 定 員：200 名
- 4. 会 費：会員（共催，共賛学会員）2 000 円，学生 2 000 円，非会員 3 000 円（いずれも教材 1 部をふくむ）
- 5. 教 材：教材（タイプ印刷，B 5 判約 200 ページ）のみご希望の方は 1 部 1 000 円にて頒布いたします。ただし教材の発送は講習会終了後になります。

岩石力学講習会参加申込書

- 6. 申込締切：1965 年 11 月 20 日（土）まで
- 7. 申 込 先：日本材料学会講習会係
京都市左京区吉田泉殿町 1 の 101
電 京 都 77-1912 振替口座 京 都 26625 番
- 8. 申込方法：右記様式に所属，氏名，連絡先等明記のうえ聴講料を添えてお申込みください。
参加申込みのありました方には折り返し参加証をお送りいたします。

社 名		会 員	非会員
所 在 地 (連絡先)			
送 金 内 容	聴講 名 円	教材 部 円	計 円
受 講 者 名 受 氏			番 号
"			
"			
"			

「1965 年度」水工学シリーズの頒布について

水理委員会では昨年に引続き「水工学に関する夏期研修会」を札幌で開催し非常な好評を得ました。

委員会では各方面からのご要望に応え「研修会講義集」を刊行し一般に頒布することに致しました。本年度の講義集は特に実際のな応用を主にした内容になっています。ご希望の向きは，早目に土木学会あてお申し込み下さい。

内 容 目 次

A. ダム・河川コース 頒 価 2 000 円 送 料 100 円

- 65-01 ダムの Spillway の設計
- 65-02 ダムの Outlet Works の設計
- 65-03 ダムにおける Sedimentation
- 65-04 河川流出の例題解説
- 65-05 開水路流れの例題解説
- 65-06 護岸・水制・床固めの水理機能
- 65-07 弯曲水路の流れ
- 65-08 北海道の河川事業の特色
- 65-09 護岸・水制・床固めの工法と設計例
- 65-10 水門・樋門の計画と設計
- 65-11 密度流論

- 東北大学教授 工博 岩崎 敏夫
- 北海道大学教授 工博 山岡 勲
- 京都大学教授 工博 芦田 和男
- 京都大学助教授 工博 土屋 義人
- 京都大学教授 工博 石原 安雄
- 京都大学教授 工博 岩佐 義朗
- 建設省土木研究所河川部長 工博 吉川 秀夫
- 北海道大学教授 工博 岸 力
- 北海道開発局建設部長 町田 利武
- 建設省河川局長 古賀雷四郎
- 名古屋大学教授 工博 西畑 勇夫
- 東京大学教授 工博 嶋 祐之

B. 海岸・港湾コース 頒 価 1 500 円 送 料 100 円

- 65-12 波浪の推定に関する最近の研究
- 65-13 波浪スペクトル論とその応用
- 65-14 漂 砂 論
- 65-15 漂砂測定法
- 65-16 波 圧 論
- 65-17 消波構造論
- 65-18 北海道における海岸および港湾の諸問題
- 65-19 海岸保全計画論
- 65-20 河口密度流論
- 65-21 津波理論

- 九州大学教授 工博 井島 武士
- 運輸省港湾技術研究所水理研究室長 工博 浜田 徳一
- 東京大学助教授 工博 堀川 清司
- 北海道大学教授 理博 福島 久雄
- 九州大学助教授 理博 光易 恒
- 北海道大学教授 工博 尾崎 晃
- 北海道開発局港湾部長 穴釜 正吉
- 運輸省港湾局防災課長 久保島信弘
- 北海道大学教授 理博 柏村 正和
- 大阪大学教授 工博 室田 明

なお「1964 年度・水工学シリーズ」も僅少なながら残部があります。A. コース頒価 1 100 円（送料 100 円），B. コース頒価 1 300 円（送料 100 円）